

日本語パートナーズ《台湾第一期》 活動のご紹介 (3)

日本台湾交流協会では、2017年2月より、台湾での日本語教育を一層充実させるため、独立行政法人国際交流基金の委託を受けて「日本語パートナーズ」台湾派遣事業を開始しました。日本語パートナーズは、主に台湾の高校で授業で授業を行っている台湾人日本語教師のティーチングアシスタントとして、発音や会話のサポートをしたり、日本文化を紹介したりして、先生や生徒、さらには地域の人たちと交流を深めることができるほか、自身でも現地の文化や言葉を学ぶことができます。この度、台湾一期として2017年2月から6月まで約5ヶ月間台湾へ派遣した5名のパートナーズの、台湾での活動所感を、10月号に引き続き2名ご紹介致します。

パートナーズ体験記

日本語パートナーズ 台湾1期

川谷 紗知子

はじめまして。日本語パートナーズ台湾一期として台中市に派遣されておりました川谷紗知子です。

台中でのパートナーズ活動

派遣されるまで台中市がどんな所か全く分からず、以前行ったことのある日月潭のあるところかなという知識だけでした。実際日月潭があるのは南投県と知って、台中について何も知らないまま活動が始まりました。

わたしが派遣された豊原高級中学では日本語の授業は毎週木曜日に開講されています。日本語を勉強しているのは1年生で、元気がよく賑やかで木曜日に来るのがとても楽しみでした。授業のある日は10時から昼休みを挟んで6時間連続で同じ内容を教え続けているので、最後のクラスの授業時にはクタクタになっていることもありました。同じ内容を教えていると言っても、クラスの雰囲気はそれぞれ違うのでおもしろいです。

授業ではカウンターパート（ペアを組んで教えている台湾人の日本語教師、以下CP）が主に授業を進め、わたしはアシスタントとして授業に

参加しています。プリントを配ったり、板書をしたり、会話練習の相手役をしたり。時には文化発表を任されて、写真や動画を見せながら日本の文化やわたしの故郷について紹介したりしました。

CPは長年日本語を教えていらっしゃる先生で、生徒たちが日本のどんなことに興味を持っているか、どんな日本語を知りたいと思っているかなど私の知らない「台湾の高校生の日本語事情」を把握しています。そんな先生が授業を担当していることもあり、先生の話に耳を傾け、面白いときには大爆笑し、気になるところがあればすぐに質問する生徒たちの姿を見て先生と生徒たちの間の信頼感や仲の良さを感じました。



巡回校

豊原高級中学のほかにも週に一回台中市内にあ

る西苑高級中学でもパートナーズ活動をしていました。こちらの学校では2年生が日本語を勉強しており、派遣校とはまた違った雰囲気です。週一回の巡回がとても楽しみでした。

西苑高中には近くに大学があり、語学留学生が出身国の紹介をしに来校する機会もありました。そんな立地ですから日常生活の中でも日本人と関わる機会が多いのではないかと考えていましたが、ある日の休憩時間にひとりの生徒が「初めて日本人と話しました」と声をかけてくれました。日本の情報や日本製品、日本人で溢れている台湾でわたしが派遣される意義は何かと思っていましたが、このような生徒たちとコミュニケーションを取ることにより日本や日本人を身近に感じてもらえることがわたしが台湾で活動する意義なのだと気づきました。

CP との日本語授業

台湾に派遣される前は「CP が長年教えてきた中で一体わたしはどんな活動ができるだろう」「邪魔にならない程度に…でも、わたしらしい活動もしたい」という思いでいました。実際活動を始めてみると、「発音をお願いします」や「これを書いてもらえませんか」など明確に指示を出してもらえたので初回の授業から積極的に授業に参加出来ました。時には一緒に授業で使う文字カードや絵カードを作ったり、例文を考えたりしました。どうやったら生徒たちが楽しく日本語が勉強できるか、日本語に興味を持ってもらえるかがCP と



わたしの一番のテーマでした。

文化発表ではCP が一通り説明した後にわたしが発表をします。例えば「ひな祭り」を紹介した時には、わたしの実家のひな人形の写真を飾り付けている様子が見られるものも踏まえて見せました。その写真を見て生徒たちが「ひな人形はどこに飾りますか」「ビンゴですか」「ひな人形を飾るのは簡単ですか」「よく(ネットやテレビで)見るひな人形は一つの部屋に一つしかないのに、どうして先生の家にはいくつもあるのですか」など質問をしてくれます。インターネットとは違い日本人に直接聞くことができますし、わたしも自分の家のことなので簡単に答えることができます。生徒たちが積極的に質問をしてくれるお陰で深みのある授業になりました。日本人の生活や最新の日本の情報に関しては日本人の方がよく知っているとCP も思ってくださっていたので、その点はわたしが担当し、日本語パートナーズとしてのわたしを上手に活用してもらえました。

職員室の先生方との日常

授業のない日はほとんどの時間を教務室で過ごしていました。学校には外国人はわたし一人だけだったので、台湾人の先生方に囲まれて一体どんな毎日になるのだろうとワクワクしていました。

先生方はとても親切で中には「おはよう」「これは本です」などの簡単な日本語が話せる方もい



らっしゃいました。教務室には休み時間に教務連絡の張り紙を取りに来る係の生徒がやってきたり、教務に用のある生徒がやってきたりと人の出入りが激しく、わたしが日本人とは知らずに教務関連のことを尋ねる生徒もいました。そのたびに教務の先生が「その先生は日本人だよ」と言ってくれるので、わたしが教務室にいることがじわじわと学校内に広まっていきました。

教務室での毎日はとても穏やかで、窓から見える木の上に鳥が巣を作ったときにはみんなでヒナの成長を見守ったり、誰かがパイナップルを持ってきたときにはみんなで食べたりしました。台湾のパイナップルは芯まで美味しく食べられるのだと感動したのを覚えています。台湾人の先生方に囲まれて、自分一人では知ることのできない台湾について知ることができました。

3年生との交流クラス

派遣されて1か月半ほど経った4月から3年生との交流クラスを開講することになり、毎週月曜日と火曜日、約45人の3年生と日本語や日本文化について学びました。

どのようなことが知りたいか体験してみたいかを最初にアンケートで聞いていたので、それをもとに生徒たちと相談しながら活動内容は決めました。挨拶や数字の言い方、ひらがな、買い物のための表現などを一緒に勉強し、それぞれの回に関係のある日本の映画を一緒に見たりしました。生徒たちと一緒に映画を見ていると、面白い場面では声を出して笑ったり、怖い場面では怯えたりと高校生らしい反応が見られてこんな一面があるのだなあと感じました。

この交流クラスでは、わたし自身と生徒たちのコミュニケーション能力が鍛えられたと感じています。なぜなら、生徒の中に日本語が話せる生徒はほとんどおらず、わたしも中国語が出来なかったからです。それでも毎週顔を合わせる中で、日本について聞きたいことや知りたいこと、台湾に

ついて聞いてみたいことが増えていき、身振り手振りや写真や絵、知っている単語などを用いて伝えられるようになりました。

これから大学生になっていく3年生たち。持ち前の優しさと工夫をしながら一生懸命伝えようとすコミュニケーション能力を持ったまま広い世界に飛び出してほしいと願うばかりです。

活動を終えて

あっという間の4ヶ月半の派遣期間を終えて、「あ、台湾、大好き」「もっとみんなと日本語の勉強がしたかった」「もっと台湾にいたかった」という気持ちです。豊原高級中学での毎日はとても楽しく、イキイキと日本語を学んでいる姿にわたし自身もたくさんの刺激をもらいました。いつか生徒たちが日本へ行ったり、日本人の友人が出来たとき、「高校生の時に日本人の先生がいたなあ」と少しでも思い出してもらえたらうれしいです。

4ヶ月半という派遣期間は今思っても短かったなあと思いますが、わたしたち一期の役割は日本や日本語、日本人への興味の種を撒くことであり、新学期から派遣される二期の方々がその種に水や栄養を与えてくれることを期待しています。



基隆市に派遣されて
日本語パートナーズ 台湾1期
斎藤 希美

はじめに

はじめまして。私は2月から4か月半「日本語パートナーズ」として基隆市で活動をしました。学生時代は音楽を勉強し、その後自動車教習所の教習指導員として10年余りを過ごしました。私が勤めていた教習所は外国人教習生がとても多い所でした。彼らが一生懸命異国の地で頑張る姿を見て、それを手助けする喜びを覚えた事は、国際交流に興味を持つきっかけの一つになりました。

その後「日本語パートナーズタイ2期」として10か月間、タイの高校で活動をしました。「日本語教育」について全く素人であった私は、日本語について質問され頭を悩ます事や、「日本語教師」ではない「日本語パートナーズ」としての活動の難しさに悩む事もありました。しかし周りの皆さんに支えられながらかけがえのない10か月間を過ごす事ができました。

帰国後「日本語教師養成講座」に通い日本語教師を目指していたある日、「日本語パートナーズ台湾1期募集」を知り、タイの先生や生徒達の顔がよみがえってきました。そして色々な意味で日本に一番近い外国台湾で、もう一度「日本語パートナーズ」として活動する運びとなりました。

派遣前に不安だった事は、日本語力の高いCPの先生のパートナーとして、そして日本文化がたくさん入り込んでいて、日本語学習経験者が多い台湾で、自分に何ができるのか、という事です。

「日本語パートナーズ」の任務として

- 現地日本語教師のアシスタントとして授業をサポート
- 日本文化の紹介を通じて、派遣先の生徒や地域の人たちと交流

- 現地の言葉や文化を習得
- 活動のこと、現地のことを日本に伝えるという事が掲げられています。以下、私が活動してきた内容です。

現地日本語教師のアシスタントとして授業をサポート

私は台湾で邱先生（女性）と紀先生（男性）の先生のアシスタントとして二つの高校で活動しました。お二人とも日本語能力試験N1の取得者で、時々日本人と話しているかのように錯覚するほど日本語が上手です。又来日回数も多く、日本文化についてもよくご存知のお二人でした。

授業では、先生とのロールプレイや生徒とのロールプレイ、会話の練習、単語の発音モデル、テスト作成の手伝い等をしました。

何人か日本留学希望の、日本語がとても上手な生徒がいました。しかし大半は一学期間、週一回だけ日本語を勉強した生徒です。まだ会話もままならないレベルでしたが、一生懸命日本語を話そうとする姿はとても可愛いものでした。

授業外ですが、日本台湾交流協会による台湾の高校生対象の日本留學生の応募に派遣校より3名応募しました。うち2名が一次審査を通過し、二次審査の面接準備の為、CPである紀先生が模擬問題を作成しました。その後生徒と一緒に答え方を考えたり、練習をしました。結果1名が二次審査を通過し、9月に日本に留学予定です。



邱先生とのロールプレイ



生徒達との会話練習（自己紹介、名刺交換）



日本文化の紹介を通じて、派遣先の生徒や地域の人たちと交流

派遣先の高校では授業、クラブ活動、休み時間等に折り紙、桜、こどもの日、日本の歌、日本の高校、浴衣等の紹介をしました。又、高校の先生方との交流会も週4コマ実施していました。基本的には日本語教室でしたが、かるた、バレンタインデーやホワイトデー、ひなまつり、春分の日等の紹介もしました。天ぷら、ちくわ、野菜、果物等、台湾の食べ物と日本のそのの違いについて質問も多く受け、紹介する機会も多くありました。同時に私も台湾の食べ物についてたくさん知る事ができました。

CPの先生とも授業以外の時間でたくさんの事を話しました。日本の公立学校での結婚事情や、一生餅のお祝い、こどもの日のちまきの味や形の由来、日本のトイレ事情等、日本文化に詳しく、日本留学経験もある先生方でしたが、知らない事も多かったようです。





先生方との交流会最終日



おのおののカップで茶道体験

現地の言葉や文化を習得

現地の言葉や文化は、CPの先生から、学校の先生との普段の会話、放課後や休日一緒に出掛けた時、先生との交流会の中で、生活CPとの会話の中で、休み時間に遊びに来る生徒から、たくさん教わり勉強しました。

又、私が席を置かせて頂いた職員室に在籍していた国語の先生が「言語交流をしましょう。」と仰ってください、週一度、中国語を教わっていました。「大学時代に日本語を勉強した事があるが、忘れてしまった事や知らない事もある。」との事で、時々日本語についても質問を受けました。この先生の息子さんが放課後、学校の職員室でよく宿題をやっていて、彼からもたくさん中国語を教

わりました。こどもの日には新聞紙や折り紙でかぶとを一緒に作りました。数日後、彼が学校の国語の教科書を「ねえ、これ見て。」という感じで私に差し出してきました。なんとそこにはかぶとのような物をかぶった子供の絵が描かれているではありませんか。色々な不思議な感覚につつまれながらもとても感動した事を覚えています。

休日や放課後の時間には、週一回程度、外の語学学校にも通い勉強しました。教科書の中身だけではなく、生活する上での会話や情報、文化についても沢山教えて頂きました。とても良い先生で授業以外の時間でも質問に答えて下さるし、今でも交流が続いています。

同じ住居に住む日本語を話せる方と友人になり、その方のご紹介で、近隣の二胡教室に週一回通いました。先生も他の生徒さんもみな台湾人だったので、色々な事を教わり、日本語の簡単な挨拶も覚えてくれました。

端午節の時には、色々な方から、台湾のちまきについて教わりました。頂いたちまきはゆうに10個を超え、周りの先生から「今日もお昼ごはん、ちまきなの?」と言われていました。おかげでたくさんの種類のちまきを味わう事ができました。



二胡発表会

活動のこと、現地のことを日本に伝える

活動のこと、現地のことはSNS、Facebookをつかって発信していました。又一度国際交流基金のホームページ上にある「今月の日本語パート

ナーズ」にも活動の様子を投稿しました。又家族や友人等にも活動や生活の様子を写真を交えながら伝えていました。

帰国した現在も台湾と日本の文化や食べ物の違い等について、折に触れて話しています。今でも台湾の先生や友人、生徒と交流があるので台湾の様子を聞いたり、こちらの日本の様子を伝えたりもしています。

おわりに

台湾は日本文化がたくさん入り込んでいて、日本のテレビ番組も放映されているし、インターネットでも簡単に情報が得られます。派遣前に不

安に思っていた事は活動を続けていくうちになくなっていきました。「日本人」が「日本人」として経験してきたことを「日本人」が語り、表現し、その場で実際に見てもらったり、聞いてもらったり、体験してもらう事は日本人にしかできない「日本語パートナーズ」の大切な役目だと感じました。

台湾の方はみなとても親切で、多くの優しさを頂いて帰国しました。この恩返しが少しでもできるよう、台湾と日本の絆をもっと近づける架け橋となれるよう、精進していきたいと思います。

帰国しましたが、「日本語パートナーズ台湾一期」としての活動はこれからも続きます。



同じ職員室の先生。台湾の素麺をゆでてみんなで食べた日



私に中国語を教えてくださった国語の先生



先生の息子さん

